

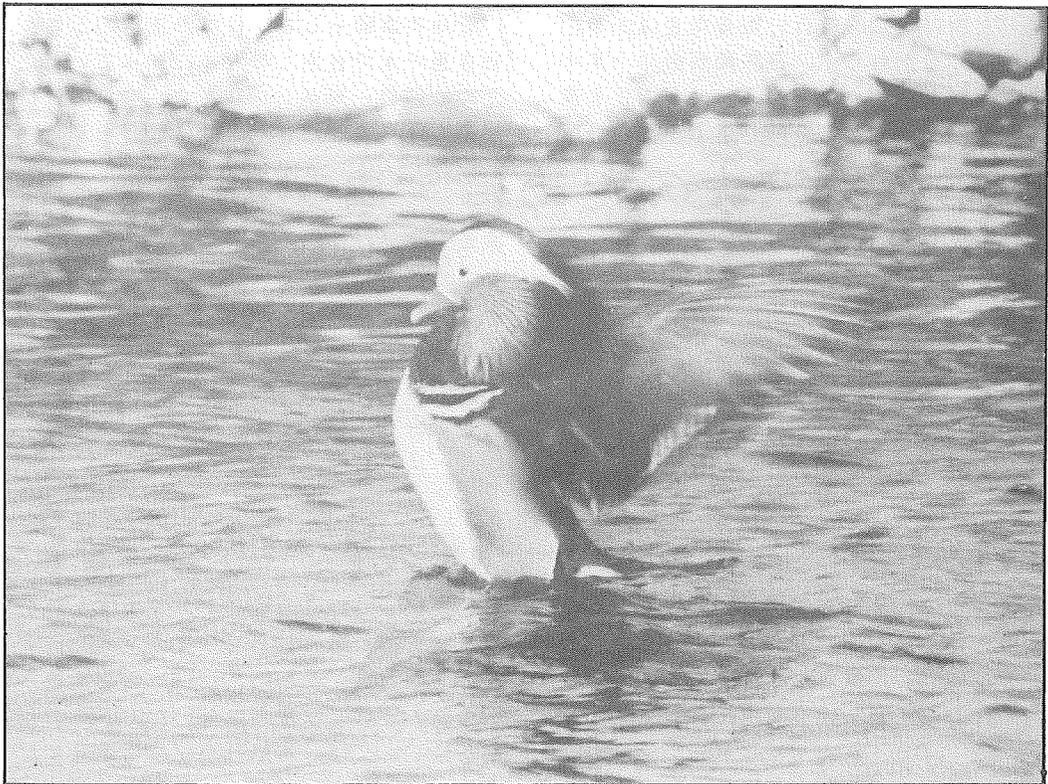


1987・1

第 32 号

# しろこぼと

日本野鳥の会 埼玉県支部



オンドリ（ガンカモ科） オンドリが見たいオンドリが見たいと思っていたある日のこと、鳥見がてらの休日出勤の途中、10羽ぐらゐのカルガモの群れに混じって、何と、オンドリが1羽いるではありませんか。さらに運の良いことに、その日は借り物のレンズとカメラに自前の三脚をかついでいたので、もう夢中でシャッターを切っていました。その中で一番気に入っているのがこの1枚です。

（写真と文・登坂久雄）

# '87 A HAPPY NEW YEAR

新しい年を迎えて、  
1月号は、活動を裏で  
支える普及部・事業部・  
編集部・研究部・総務  
部の各部長に、各部の  
紹介をしてもらいました。

## 行事の企画運営・普及部

中島康夫

新年明けましておめでとうございます。昨年は会員の皆様の絶大なる御支援により70回余の探鳥会を行い、内容も充実した会を催すことができました。これに気を良くした普及部の9人のおじさん達は、今年もより充実した探鳥会作りにはりきっています。先ずは一ヶ所でも多くの市町村で開催し、一人でも多くの方に自然に親しんでもらうこと。昨年好評だった所は定期的に行い定着化をはかる。野鳥だけにこだわらず、自然観察会やハイキング、ナベを囲む会など探鳥会の多様化を進める。又、1泊旅行も企画します。室内会は

昨年好評の野鳥写真教室も新たな構想で再出発を計画しており、シギ・チドリやワシ・タカの識別勉強会も考えております。

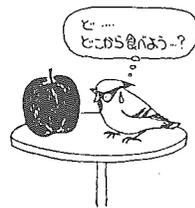
会員増加にともないリーダー不足が懸念されましたが、昨年のリーダー研修会の参加者は現在第一線で活躍中です。今年もリーダー研修会を行ないます。その節は多くの方の参加をおまちしています。

野鳥の素晴らしさ、自然の素晴らしさ、大切さを一人でも多くの人達に知っていただくために部員一同ガンバります。会員の皆様のご協力今年もよろしくお願い致します。

## 支部活動拡大のために・事業部 今井明巨

旧年中は大変お世話になりました。皆様のおかげで事業部販売物の売上げ実績は、順調に伸びております。売上金は、支部活動に使わせていただき、県内の野鳥の保護のために役立っています。埼玉県支部は、支部長以下すべてボランティア、県支部会計よりまったく報酬を得ていないことを自慢しております。少ない県支部の収入を事業部収入を

拡大して助けたい、そして支部活動を発展させたいと事業部一同願っています。今年には県支部のオリジナル販売物を企画しておりますので、よろしくお願い致します。



カット  
鈴木加代子

## メッセージャーボーイ・編集部 山部直喜

編集部では、『しらこぼと』は会員みんなのものという基本方針のもと、“楽しい”そして“役に立つ”紙面づくりに努力しています。具体的に“楽しい”では、会員相互のコミュニケーションの場、会員同士をつなぐものをめざしております。“役に立つ”では、野鳥の情報提供、野鳥保護への提言などをめざしております。



カット・黒田佳子

次年度もこれらの方

針を継続していくつもりでおりますが、反省や提案も多く出されております。本当に“楽しい”紙面か、本当に“役に立つ”内容か、編集部の運営に改善点はないか、ページ数を増やしてはどうか、鳥以外の記事も載せてはどうか、写真やカットを増やしてはどうか等々…。

支部報は、支部活動の足跡であり、支部の具体的な“顔”です。編集部ではそれらを意識しつつも、会員みなさんの協力を得て、まあボチボチ、楽しく、自分達にできる範囲で、力を継続して編集に携わっていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

# 初心を忘れずに

日本野鳥の会埼玉県支部長 今井昌彦



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様はすでに新春の探鳥を楽しまれているのでしょうか、冬鳥調査に取り組んでいらっしゃるのでしょうか、どうぞ今年も健康に御留意されて御活躍ください。

県支部は新しい出発をしてから、3回目のお正月を迎えました。ふりかえれば、昭和59年4月、数名の有志により県支部の再建の話合いが続けられ、鈴木忠雄氏、海老原美夫氏、石井生高氏をはじめ有志の熱心な設立への努力と、本部の物心両面にわたる御助力により、新支部が設立誕生したのです。

あれから3年、県支部は役員、ボランティ

アの会員の御努力により大きな発展を遂げ、埼玉県の自然保護活動の一翼を担うまでになったことは、支部長として大きな喜びであります。

しかし、我々にとってやらなければならない仕事がたくさんあります。新支部結成の情熱を忘れずに野鳥を愛し、自然を愛する心を大切にして、ボランティア精神と会員の和をもって、埼玉県の自然保護活動に取り組みみましょう。

## 支部のブレイン・研究部

小荷田行男

埼玉県は従来の県南に加え、県央から県北へと都市化の波が拡がりつつあります。水田や雑木林が住宅地へ変わり、農地は減反により草原化湿地化し、雑木林はクヌギーコナラーアカマツ林から、落葉かきや下草刈りなどの管理がされずスタジイ、シラカンなどの常緑広葉樹の幼樹が生え、照葉樹林へと変化してゆく兆しを見せています。特に平野部から丘陵地帯は、従来の一様な土地利用形態から、モザイク状に細分化された土地利用形態へ変

っています。コゲラ、アオゲラなど新たな種の都市鳥化の兆しも見られ、野生動物は環境変化に様々な対応をとりつつあります。

移り変わりゆく埼玉の自然を鳥類を中心に、生態系の観点から調査研究するのが研究部の役目です。その活動は特定の会員だけでなく広く一般の会員が参加できる調査方法を確立し実行する事です。

県内野鳥分布調査をはじめ各種の調査に会員の皆様の御協力を宜しくお願い致します。

## いぶし銀の輝き・総務部

海老原美夫

大麻生の探鳥会が終ると、役員たちが熊谷市内の埼玉県栄養専門学校に集まる。午後2時からの役員会をひかえて、昼食を終り一息ついた午後1時、「さ、総務部会議を始めましょう」と海老原美夫総務部長の声がかかる。いつも役員会の前1時間に、総務部会議が開かれる。

議題の内容、背景などについてひと通り説明を聞くと、鈴木忠雄副支部長が「うん、いいよ、それでいい。」と言う。もちろん考えた

上での発言だが、言い方があまりにもかる〜いので、部長は思わずずっこける。にやにや見ていた石川敏男監事と草間和子幹事がおもむろに意見を述べはじめる。

支部の基本方針について検討する総務部は、田村照治副支部長、西城戸司幹事ら、合わせて副支部長3人、監事1人、幹事2人で構成されており、地味だが重要な柱として、ひたすらはなやかさを避け、渋さの魅力、いぶし銀の輝きを追求しているのだ。

# ●鳥見ふあつしよん考●

文 = 鈴木高士

カット = 鈴木加代子



年があらたまり、会員制度まで新しくなって、目に触れる鳥も昨日までと違って見えるこの頃です。ここらでちょっとナウい話でも、というわけで、バードウォッチングのファッションについて、若手(?)編集部員の鈴木高士に語ってもらいました。

どうも野鳥の会(または鳥見人)というのは、多くの一般人の目には、「暗い、ダサイ、得体の知れぬ」連中と映っているようだ。ファッションについてもそうで、「あんな連中と一緒にされては困る」というくらい不粋で薄汚い輩と思われているようである。これが(自然保護に関心のある人は極めて多いのに)野鳥の会が一向にメジャーになれぬ原因かと思ったりする。困ったことである。自然保護に大きな成果をあげるには、我々は外部に華やかな印象を与える努力をもっとなすべきであろう。私ごとき、ファッションを云々するに相応しい人材ではないのだが、少し過激にこうした問題を提起してみたい。

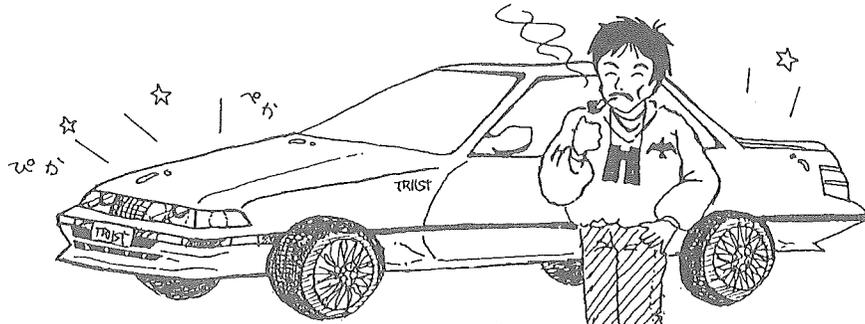
しかしそもそも、鳥見人の服装はそんなにひどいのか。冷静に見て、あまりみばえのない人が多いのは事実である。しかし、薄汚い印象を与えるほどではないように思う。どうやらこの悪しき印象は、マスコミ等から流れてくる(あるいはかつて流れた)ゲリラ風アウトドア・ルックのイメージに由来するようだ。実際の鳥見人を見た時には、彼等に典型的な服装というのものなし、きらびやかさもなしで、あまり印象に残らぬのであろう。せいぜい「緑や茶の多い地味な連中」という印象だけが残る。そして、時々マスコミ(稀には実物)からゲリラ風イメージを得る。これが強烈なるが故、類型化せんとする心理が働く。実際に見た鳥見人の地味な印象と、ゲリラ風イメージはそう大きく矛盾しないから、

「そう、鳥見人は皆ゲリラ風なんだ」と決めつけてしまう。こんな具合のようである。

そんなわけで、我々鳥見人は世間から不当に不粋に見られているのだが、だからと言って、我々に反省すべき点が無いわけではない。みばえのする印象を与えていないことだけは事実なのだから。だって仕方ないじゃないか、地味な服が鳥見の基本だよ、と言われるかもしれぬ。見てくれじゃないよ、機能性第一だよ、とも言われるかもしれぬ。しかし私はあえて言いたい。「教条的になっていませんか」

大体、探鳥会や、軽井沢等有名探鳥地では、人通りが多いのだから、それだけで鳥は警戒するのであって、わざわざ地味な服を着ても効果は疑わしい。まして冬景色の中ともなれば、緑の服はかえって目立つだろう。そんなことも考えず、所構わず地味な服装で出かける人が余りに多い。この地





味さや機能性優先のお題目への盲目的忠誠が、服装の選択範囲を狭め、不必要に野暮ったい雰囲気をつくっているように見えるのである。

さらに危惧すること、このお題目への忠誠は、ファッションへの蔑視、人の目の無視にまでつながりつつあるように見える。汚れきった車に野鳥の会のステッカーを貼って街中を走らせる。なるほど長靴は機能的だが、現代の街中でこれをはいているのは、鳥見の行き帰りの鳥見人以外殆どいない。その長靴に干潟の泥をつけたまま得意顔でいたりする。そして稀に本当に見かけるゲリラ・ルックの鳥見人は、これぞ鳥見の真髄とばかり有頂天になっている。これらは少数派である。しかし、こうした人々を我々はさして異常とも感じなくなってはいまいか。逆に、探鳥会にお洒落をして行くことに、うしろめたさを感じさせる雰囲気が、我々の中にはないか。

と、こう書いてきたのだが、実のところ今まで少々過激に書き過ぎていたようだ。鳥見人がゲリラ風だと思っている一般人は、最近では減っているようである。街の探鳥会を中心に、お洒落を楽しむ人も増えているようである。しかし私は、鳥見も(テニスやダイビングのごとく)ファッションブルなイメージにひかれてメジャーになってしまうほどになって欲しいのである。それには、ここらで過激に鳥見人のファッション感覚を呼び起こす必要があるのである。野鳥の会と言えば薄汚い四輪駆動、というのは過去のものとしても、ソアラが一番似合うのは鳥見人、という状況にはほど遠い。しかし自然保護勢力の拡大には、確かにこうでなくてはいかぬのである。

ところで上述のテニスやダイビングだが、



我々はこれらに何か学ぶことはないだろうか。一体、これらのファッションブルなイメージ

とはいかなるものか。それは第一に、統一のかつ日常とは全く異なるウェアのかもしだすものであろう。統一の方が一般人にわかりやすく、非日常の方がうけるのである。

ところが、鳥見にはこうした統一なウェアを考えるのは不可能である。鳥見の舞台は多様過ぎて、どこでも使える服というのは無いのである。したがって、テニスやダイビングと違って、ウェアのかっこよさに頼ることはできない。こうなると、一層鳥見人一人一人の日々の精進が待たれることになる。

かくしてファッションブルなイメージづくりは中々大変なのだが、実は既に、鳥見人が一般人より粋であろうと努力している点がある。それはブローチ等の小物である。何の変哲もないオジサンまでが、鳥の小物を身につけて洒落ようとする文化がここにはある。正直言って、鳥見人以外は身につけたがらぬような代物もあり、内輪うけの感もあるが、この文化は大事にしたい。

そして、上述の統一のイメージづくりの鍵もここにあると思う。はばたきの躍動感のある小物が一つの人気の中心らしい。そう、はばたきである。これこそ鳥のイメージとして最もわかりやすく、かつうけるものだ。我々は今後、一人一人がより粋にはばたく小物の開発に貢献したい。そして、それが鳥見人のシンボルとなり、世人誰もが知っているようになって欲しい。私の唯一の具体的提言である。

# 埼玉県産鳥類リスト

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

これまでに作成されたリストには、江戸時代の文献等のみによる種、昭和初期までしか記録がない種等も含まれている。

本リストでは、環境との関係を考える一助とするため最近記録されている種を取り上げ、便宜的に埼玉県動物誌(1978年3月発行)以降のデータで作成した。それ以前のは参考として別リストにして付してある。

リスト作成に当り、当該種の①保護、②捕獲、③写真撮影、④声の録音、⑤複数者による観察の五つの採用基準を設定し、資料が不十分なものは削除した。また、稀少種は主な記録を記載してある。これら稀少種の動向が今後の埼玉の鳥相を考える一つの鍵となる。

## 参考文献

- 1 埼玉県教育委員会：埼玉県動物誌，1978
- 2 松田 喬：秋ヶ瀬の野鳥，浦和北高研究紀要 № 4，78～91，1984
- 3 埼玉大学野鳥研究会：鳥類観察報告 № 9，1984
- 4 (財)埼玉県野鳥の会：埼玉四季の鳥，埼玉新聞社，1985
- 5 埼玉県環境部自然保護課：埼玉の鳥とけものたち，埼玉県，1986
- 6 日本野鳥の会埼玉県支部：野鳥さいたま № 1～66，1978～1984
- 7 (財)埼玉県野鳥の会：野鳥さいたま № 67～98，1984～1986
- 8 日本野鳥の会埼玉県支部：しらこぼと № 1～30，1984～1986

## 主な記録(番号はリストのもの)

6. 1986年6月 熊谷市
7. 1982年8月 越生町
9. 日付は確認できず
10. 1979年10月 与野市
11. 1985年7月 志木市
15. 1985年9月 庄和町  
1986年10月 浦和市
19. 1982年5月 浦和市、北本市
25. 1983年11月 川越市  
1986年11月 本庄市
26. 1979年2月 本庄市  
1986年9月 北川辺町

27. 1983年1月 本庄市  
1985年1月 川本町
43. 1979年10月 大宮市
44. 1981年11月～82年1月 浦和市  
1986年11月 横瀬町
47. 1982年4月 蓮田市
48. 1984年12月 浦和市
51. 1985年11月 川越市
56. 1980年2月～3月 所沢市  
1982年2月 朝霞市
57. 1979年2月 川口市  
1986年3月 所沢市
76. 1984年3月 浦和市
79. 1981年10月 浦和市
81. 1978年10月 浦和市
99. 1979年8月 浦和市
101. 1978年9月 浦和市  
1986年9月 浦和市
102. 1982年5月 大宮市
113. 1985年9月 大宮市
126. 1985年1月 大宮市  
1985年3月 吉田町
127. 1979年9月 本庄市  
1982年7月 妻沼町
129. 1986年9月 所沢市
149. 1986年9月 吉田町
153. 1984年3月 東松山市
164. 1986年1月 所沢市
177. 1986年1月 鶴ヶ島町
185. 1979年10月 川口市  
1983年10月 庄和町  
1984年10月 庄和町
186. 1979年2月 浦和市  
1983年11月 桶川市
191. 1980年11月 戸田市
202. 1979年4月 浦和市  
1986年8月 浦和市
213. 1986年2月 川越市
231. 1985年11月 朝霞市
236. 1985年4月 浦和市
253. 1986年6月 杉戸町

## 執筆者

石井 智、榎本秀和、小荷田行男、萩原正二  
藤原寛治、森本國夫

埼玉県産鳥類リスト

1978年4月～1986年11月

カイツブリ科

1. カイツブリ
2. ハジロカイツブリ
3. ミミカイツブリ
4. アカエリカイツブリ
5. カンムリカイツブリ

アホウドリ科

6. コアホウドリ

ミズナギドリ科

7. シロハラミズナギドリ
8. オオミズナギドリ
9. ハンボソミズナギドリ

ウミツバメ科

10. コシジロウミツバメ

ネッタイチョウ科

11. アカオネッタイチョウ

ウ科

12. カワウ

サギ科

13. サンカノゴイ
14. ヨシゴイ
15. オオヨシゴイ
16. ミゾゴイ
17. ゴイサギ
18. ササゴイ
19. アカガンラサギ
20. アマサギ
21. ダイサギ
22. チュウサギ
23. コサギ
24. アオサギ

ガンカモ科

25. マガン
26. ヒンクイ
27. オオハクチョウ
28. コハクチョウ
29. アカツクシガモ
30. オシドリ
31. マガモ
32. カルガモ
33. コガモ
34. トモエガモ
35. ヨシガモ
36. オカヨシガモ
37. ヒドリガモ
38. アメリカヒドリ
39. オナガガモ
40. ツマアジ
41. ハンビロガモ
42. ホシハジロ
43. オオホシハジロ
44. アカハジロ
45. キンクロハジロ
46. スズガモ
47. クロガモ
48. シノリガモ
49. ホオジロガモ

50. ミコアイサ
51. ウミアイサ
52. カワアイサ

ワシタカ科

53. ミサゴ
54. ハチクマ
55. トビ
56. オジロワシ
57. オオワシ
58. オオタカ
59. ツミ
60. ハイタカ
61. ケアシノスリ
62. ノスリ
63. サシバ
64. クマタカ
65. イヌワシ
66. ハイイロチュウヒ
67. チュウヒ

ハヤブサ科

68. ハヤブサ
69. チゴハヤブサ
70. コチュウゲンボウ
71. チウゲンボウ

キジ科

72. ウズラ
73. コジュケイ
74. ヤマドリ
75. キジ

ツル科

76. マナヅル

クイナ科

77. クイナ
78. ヒメクイナ
79. ヒクイナ
80. バン
81. ツルクイナ
82. オオバン

タマシギ科

83. タマシギ

チドリ科

84. コチドリ
85. イカルチドリ
86. シロチドリ
87. メダイチドリ
88. ムナグロ
89. ダイゼン
90. ケリ
91. タゲリ

シギ科

92. キョウジシギ
93. トウネン
94. ヒバリシギ
95. オジロトウネン
96. アメリカウズラシギ
97. ウズラシギ
98. ハマシギ
99. サルハマシギ
100. エリマキシギ
101. コモンシギ

102. シベリアオオハシシギ
103. ツルシギ
104. アカアシシギ
105. コアオアシシギ
106. アオアシシギ
107. クサシギ
108. タカブシギ
109. キアシシギ
110. イソシギ
111. オグロシギ
112. オオソリハシシギ
113. ホウロクシギ
114. チュウシキシギ
115. コシキシギ
116. ヤマシギ
117. タシギ
118. チュウシギ
119. オオシギ

セイタカシギ科

120. セイタカシギ

ヒレアシシギ科

121. アカエリヒレアシシギ

ツバメチドリ科

122. ツバメチドリ

カモメ科

123. ユリカモメ
124. セグロカモメ
125. ウミネコ
126. ミツユビカモメ
127. ハジロクロハラアジサシ
128. アジサシ
129. セグロアジサシ
130. コアジサシ

ハト科

131. シラコバト
132. キジバト
133. アオバト

ホトトギス科

134. ジュウイチ
135. カッコウ
136. ツツドリ
137. ホトトギス

フクロウ科

138. トラフズク
139. コミミズク
140. コノハズク
141. オオコノハズク
142. アオバズク
143. フクロウ

ヨタカ科

144. ヨタカ

アマツバメ科

145. ハリオアマツバメ
146. ヒメアマツバメ
147. アマツバメ

カワセミ科

148. ヤマセミ
149. ヤマシウビン
150. アカシウビン
151. カワセミ

ブッポウソウ科

152. ブッポウソウ

ヤツガシラ科

153. ヤツガシラ

キツツキ科

154. アリスイ

155. アオゲラ

156. アカゲラ

157. オオアカゲラ

158. コゲラ

ヒバリ科

159. ヒバリ

ツバメ科

160. ショウドウツバメ

161. ツバメ

162. コシアカツバメ

163. イワツバメ

セキレイ科

164. イワミセキレイ

165. ツメナガセキレイ

166. キセキレイ

167. ハクセキレイ

168. セグロセキレイ

169. ビンズイ

170. ムネアカタヒバリ

171. タヒバリ

サンショウクイ科

172. サンショウクイ

ヒヨドリ科

173. ヒヨドリ

モズ科

174. チゴモズ

175. モズ

176. アカモズ

177. オオモズ

レンジャク科

178. キレンジャク

179. ヒレンジャク

カワガラス科

180. カワガラス

ミンサザイ科

181. ミンサザイ

イワヒバリ科

182. イワヒバリ

183. カヤクグリ

ヒタキ科

ツグミ亜科

184. コマドリ

185. ノゴマ

186. オガワコマドリ

187. コルリ

188. ルリビタキ

199. ジョウビタキ

190. ノビタキ

191. サバクヒタキ

192. イソヒヨドリ

193. マミジロ

194. トラツグミ

195. クロツグミ

196. アカハラ

197. シロハラ

198. マミチャジナイ

199. ツグミ

ウグイス亜科

200. ヤブサメ

201. ウグイス

202. オオセッカ

203. シマセンニュウ

204. コヨシキリ

205. オオヨシキリ

206. メボソムシクイ

207. エゾムシクイ

208. センダイムシクイ

209. キクイタダキ

210. セッカ

ヒタキ亜科

211. キビタキ

212. ムギマキ

213. オジロビタキ

214. オオルリ

215. サメビタキ

216. エゾビタキ

217. コサメビタキ

カササギヒタキ亜科

218. サンコウチュウ

エナガ科

219. エナガ

シジュウカラ科

220. コガラ

221. ヒガラ

222. ヤマガラ

223. シジュウカラ

ゴジュウカラ科

224. ゴジュウカラ

キバシリ科

225. キバシリ

メジロ科

226. メジロ

ホオジロ科

227. ホオジロ

228. コジュリン

229. ホオアカ

230. カンラダカ

231. ミヤマホオジロ

232. シマアオジ

233. ノジコ

234. アオジ

235. クロジ

236. オオジュリン

237. ツメナガホオジロ

アトリ科

238. アトリ

239. カワラヒワ

240. マヒワ

241. ベニヒワ

242. ハギマシコ

243. オオマシコ

244. イスカ

245. ベニマシコ

246. ウソ

247. コイカル

248. イカル

249. シメ

ハタオリドリ科

250. ニュウナイスズメ

251. スズメ

ムクドリ科

252. コムクドリ

253. ムクドリ

コウライウグイス科

254. コウライウグイス

カラス科

255. カケス

256. オナガ

257. ホシガラス

258. ハンボソガラス

259. ハンフトガラス

1978年3月以前の記録

アビ科

・オオハム

アホウドリ科

・クロアシアホウドリ

ミズナギドリ科

・フルマカモメ

コウノトリ科

・コウノトリ

・ナベコウ

トキ科

・ヘラサギ

・トキ

・クロトキ

ガンカモ科

・シジュウカラガン

・ハイイロガン

・カリガネ

・ハクガン

・サカツラガン

ツル科

・クロヅル

・タンチョウ

シギ科

・オオハシシギ

・ソリハシシギ

・アオシギ

・コシギ

カモメ科

・シロアジサン

ウミスズメ科

・ウミスズメ

ハト科

・ベニバト

ヤイロチョウ科

・ヤイロチョウ

ヒタキ科 ウグイス亜科

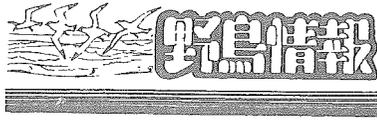
・マキノセンニュウ

アトリ科

・ナキイスカ

ムクドリ科

・カラムクドリ



カンムリカイツブリ ◇11月15日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(今井明巨)。  
オオミズナギドリ ◇11月6日、熊谷市肥塚地区及び佐谷田地区で各1羽ずつ保護される。11月8日に放鳥する(今井明巨)。  
ヨシゴイ ◇11月9日、川越市池ノ辺の間川で1羽(浅沼源太郎)。  
マガン ◇11月10日、本庄市の阪東大橋下流で幼鳥2羽(北川慎一)。  
コハクチョウ ◇11月16日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(北川慎一)。◇11月17日、吉川町吉川の遊水池で1羽(戸張勝弘)。  
オシドリ ◇10月18日、鶴ヶ島町高倉の池尻池で♂1羽(宮内滋子)。  
トモエガモ ◇10月18日、鶴ヶ島町高倉の池尻池で♂1羽(宮内滋子)。  
ヨシガモ ◇11月15日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(今井明巨)。  
シマアジ ◇11月3日、浦和市三室の芝川で1羽(楠見邦博)。  
アカハジロ ◇11月12日、秩父市の羊山公園で♀1羽(山岸昭治)。  
スズガモ ◇11月4日、熊谷市河原松山でカイツブリの群れ中に♀1羽(今井真由美)。  
ミコアイサ ◇11月15日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽(今井明巨)。  
オオタカ ◇11月8日、鶴ヶ島町の高倉の林で1羽(宮内武昭)。  
ハイロチュウヒ ◇11月9日、北川辺町の渡良瀬遊水池で♀1羽(香川裕之)。  
ハヤブサ ◇11月15日、桶川市川田谷で若鳥1羽(山部直喜)。◇11月19日、上福岡市の新河岸川上空を1羽(石井清澄)。  
タゲリ ◇10月31日、桶川市川田谷で1羽(近藤 崇)。◇11月3日、熊谷市の芝川大橋上空を6羽(山口 博)。  
チュウシャクシギ ◇10月4日、浦和市秋ヶ瀬A地区で1羽(石井 智)。  
コミミズク ◇11月23日、妻沼町の利根川河原で6羽(山口 博)。  
アマツバメ ◇10月6日、浦和市秋ヶ瀬B地

区で1羽(石井 智)。  
ルリビタキ ◇11月3日、草加市の毛長川付近で♀1羽(香川裕之)。  
ジョウビタキ ◇10月28日、浦和市の中尾神社のそばで♂1羽(草間和子)。  
アカハラ ◇11月4日、大宮市御蔵の雑木林で1羽(浅沼源太郎)。  
ツグミ ◇10月26日、桶川市川田谷で8羽(草間和子)。  
ヒガラ ◇11月4日、浦和市・中尾神社の松の木に4羽(草間和子)。  
ヤマガラ ◇11月7日、森林公園の西田沼で2羽(今井真知子)。  
ホオアカ ◇11月16日、鶴ヶ島町の高倉土地改良区で2羽(宮内武昭)。  
カシラダカ ◇11月1日、鶴ヶ島町の高倉の林で2羽(宮内武昭)。  
クロジ ◇11月2日、熊谷市万吉の林で♂2羽♀1羽(渡辺 敦)。  
シメ ◇10月28日、浦和市中尾の自宅前の屋敷林で6羽(草間和子)。  
カケス ◇11月3日、川越市下広谷の雑木林で2羽(鈴木 暁子)。

## 新会員制度になりました

やっと、ついに、とうとう、ようやく、1月1日から会員制度が新しくなりました。2年前から、会員全員からはがきで意見を求めるなど、慎重に検討と準備を進めて来たものです。

埼玉県支部の会員であっても日本野鳥の会の会員ではない、あるいは日本野鳥の会の会員であっても埼玉県支部の会員ではないという、ちょっと首をかしげたくなる不合理も、これではなくなります。すっきりと、『埼玉県支部の会員=県内の日本野鳥の会の会員』という形で一体になります。前進へのワンステップです。

移行手続は間違いのないように気をつけるつもりですが、もし混乱がありましたらおゆるしてください。くわしくは『しらこぼと』昨年9月号をごらんいただくか、事務局までお問い合わせください。(担当・海老原美夫)



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。  
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば  
双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意く  
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以  
下＝50円

1月3日(土) 東京都北区 浮間公園

— ホロ酔い迎春探鳥会 —

午前9時30分埼京線浮間舟渡駅前集合(埼  
京線大宮9:03発→武蔵浦和9:16→浮間  
舟渡9:25着)正午ごろいちおう解散。新  
年の鳥見は池のカモたちから始まります。  
荒川岸に出るとカワウやチョウゲンボウも。  
いちおう解散後のホロ酔いのもと、各自  
持参。さあ楽しく今年もしゅっぱ〜つ。  
(担当=海老原美夫、福井恒人)

1月4日(日) 吉見町 吉見百穴周辺

— 初春はタゲリから —

午前9時30分東武バス停百穴入口前集合。  
東上線東松山駅東口8:58発又は高崎線鴻  
巣駅東口東海銀行前8:50発のバスが便利  
です。午後1時ごろ解散。タゲリ、ハシビ  
ロガモ、ジョウビタキなどが楽しめます。  
(担当=榎本秀和、今井明巨)

1月10日(土) 長野県 軽井沢

— 冬の小瀬林道に冬鳥を求めて —

午前6時30分大宮駅中央改札口前集合。普  
通電車利用の日帰り探鳥会です(一区间特  
急利用)。ハギマシコ、ベニマシコ、ミヤ  
マホオジロ、ウソ、レンジャクを探して、  
小瀬林道を歩きます。雪が予想され、足元  
と防寒をしっかりと。大宮6:42発又は、  
大宮7:22発特急あさま1号に乗車、軽井  
沢駅下車。(担当=中島康夫、楠見邦博)

1月11日(日) 滑川町 森林公園

— 何種類のカモを見つけられますか —

午前9時30分森林公園南口集合(東武東上  
線準急川越8:38発→森林公園9:07着。  
駅前より東武バスで南口行き9:17発に乗  
車、9:27着が便利。車は南口に大駐車場  
があります)。入園料350円が必要です。  
山田大沼をうめる4,000羽のカモが見どこ

ろです。(担当=今井明巨)

1月18日(日) 浦和市三室地区(浦和市立  
郷土博物館共催・定例)参加費無料

— 今年の鳥始めは三室から —

午前8時15分北浦和駅東口又は、午前9時  
郷土博物館前に集合。午後1時ごろ解散。  
毎年芝川ではタカブツギが越冬しています。  
林ではメジロやシメも見られます。  
(担当=楠見邦博、福井恒人、森本國夫)

1月25日(日) 久喜市 昭和池

— カモ、カモ、カモ、カモ1万羽 —

午前9時10分東北本線白岡駅前(東北本線  
大宮8:49→白岡9:04着)または昭和  
池の駐車場前9時45分集合。午後1時ごろ  
解散。県内最大のカモの飛来地です。トモ  
エガモやミコアイサなどの珍しいカモが見  
られます。(担当=中島康夫、浅田徳次)

1月25日(日) 三芳町 多福寺

— 雑木林ウォッチング —

午前8時45分東武東上線上福岡駅西口(埼  
京線大宮7:54発→川越8:13着、東上線  
乗換川越8:33発→上福岡8:38着)また  
は午前9時30分多福寺駐車場集合。午後1  
時ごろ解散。広い雑木林にキツツキ類やカ  
ラの混群が飛び交います。  
(担当=藤原寛治、長谷きみ子、福井恒人)

2月1日(日) 蓮田市 黒浜沼

午前8時45分蓮田駅東口バス停前集合。午  
後1時ごろ解散。沼周辺ではクイナやバン、  
カモ類、オオジュリン、林ではミヤマホオ  
ジロ、シロハラなどが見られます。

2月8日(日) 新座市 平林寺境内

午前9時東武東上線志木駅南口集合。  
ルリビタキ、ビンズイ、アカハラ

2月8日(日) 滑川町 森林公園

1月11日と同様。

# 探鳥会報告

11月3日(月、祝) 川口市 差間

人 46人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ コガモ バン ユリカモメ シラコバト キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス(27種)シラコバトの後首飾りをしっかり観察して歩き出すと、道路脇の乗用車のサイドミラーにハクセキレイ2羽が盛んに攻撃をかけていた。人が近付いても一生懸命。自分の姿が写っているんだよと教えてやっても、だめなんだなあ、これが。

11月8日(土) 日光 戦場ヶ原

人 42人 天気 晴 鳥 カイツブリ マガモ コガモ ヒドリガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ コゲラ セグロセキレイ カワガラス ミソサザイ キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ウソ カケス ハンブトガラス(21種)寒さが早く来て鳥が山を降りたのか、最初はさっぱりで担当リーダーはやきもき。でも、昼食後は尻上りに探鳥会らしくなり、ミソサザイとカワガラスなど大サービスで皆を十分に楽しませてくれた。

11月9日(日) 熊谷市 大麻生

人 20人 天気 曇後雨 鳥 コサギ オナガガモ イソソギ タシギ キジバト アカゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハンボソガラス ハンブトガラス(25種)県営ゴルフ場の中でアカゲラの♀が現われ、しっかり観察でき、「初めて見たわ!」と大感激の人もいた。カシラダカ、ツグミの数も多くなって、大麻生もいよいよ冬鳥の季節。

11月16日(日) 浦和市 三室地区

人 67人 天気 曇 鳥 カワウ チュウサギ コサギ コガモ ノスリ タカ SP キジ クサソギ タカブソギ イソソギ タシギ ユリカモメ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス ハンブトガラス(33種)この探鳥会で初めてカワウが現われた。カスミ網の危険を逃れて渡って来たばかりのツグミ達の群れ、軽々と飛翔するユリカモメ達、愛敬を振りまくジョウビタキなどが印象的。この欄の担当者は、カヤネズミらしいのをくわえて飛ぶモズを見て驚いた。

11月23日(日) 坂戸市 高麗川

人 70人 天気 晴 鳥 カイツブリ ゴイサギ コサギ カルガモ ノスリ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン イカルチドリ クサソギ イソソギ キジバト ヤマセミ カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハンボソガラス ハンブトガラス(37種)天気は上々。高麗川の清流にカワセミはもちろん、ヤマセミも見られた。また、木の実に集まっていた50羽位のイカルの群れも壮観であった。

11月24日(月、振休) 桶川市 川田谷

人 33人 天気 曇 鳥 コサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ ノスリ タゲリ タシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハンボソガラス ハンブトガラス(28種)やっぱりタゲリを見るならここが一番。100羽位のタゲリが空を舞い、皆大満足。期待されたハヤブサは出なかったが、鳥合わせでワシタカの話をしたとたんにノスリがタイミング良く現われた。

# 連絡帳

## 支部エンブレム好評です

先月号でご紹介した支部エンブレム、大変好評で、売れ行きも上々です。開発を担当した草間和子事業部幹事（写真右）は笑いがとまらないこのごろです。全部売れちゃったら笑い死んじゃうかな。



## 事務局問題検討委員会が発足

支部事務局は本来どうあるべきか、そして現実にはどの様な形でそれをになう事ができるかを検討する委員会ができ、委員長として山部直喜幹事が就任しました。

現在の事務局は、新支部発足時に、ともかく事務局がなければという事で、海老原副支部長の事務所の、いわば台所にデスクなどを置き、本業の合い間に、野鳥の会支部事務局としての仕事もしているものです。

その海老原事務局長から「事務局のあり方を見直す時期に来ていると思う。できればどなたかにかかわってもらいたい。より良い事務局となる事を願っている」との意向が示された事がきっかけで発足した委員会です。

今後、長期的な視野に立って議論を深めます。ご意見、ご提案などをお寄せください。

## 全国の鳥獣行政担当官が探鳥会体験

11月29日（土）早朝6時30分から9時まで、

所沢市内の環境庁公害研修所で、全国都道府県の鳥獣行政担当官が集まった研修会の野外実習として、探鳥会が行われました。昨年に続いて2回目の事です。

支部からは福井恒人幹事、海老原美夫副支部長、本部から市田則孝常務理事と藤本和典普及部主任の4人が講師として参加、51人の研修生たちに探鳥の基礎を体験してもらいました。

## 会員数は

12月20日現在619人です。

## 活動報告

- 11月9日 普及部会議。総務部会議。役員会（環境庁研修会講師、行事予定など）。
- 11月16日 編集部会議（次年度編集方針など）。
- 11月22日、29日 研究部冬鳥分布調査準備作業など。
- 11月29日 『しらこぼと』12月号袋詰め（ボランティア4人、このごろちょっと少ないですね）。12月1日発送。
- 11月30日 狭山市立中央児童館の野鳥観察会にリーダー4人と会員多数が参加。



オニの編集長にせかされて、今月もなんとか原稿を間に合わせる事ができました。

このページを見て、自分の顔写真にギャッとおどろく人が1人。楽しみだな。

冬鳥を見て帰って来ると、家にはサンズイドリ（ $\text{ヰ} + \text{酉} = \text{酒}$ ）が待ってます。（海）

題字『しらこぼと』：日本野鳥の会会長・山下静一

（イラスト風見出し・鷹尾正斉）

『しらこぼと』	1987年1月号(第32号)	頒価100円(会費に含まれます)
	発行人 今井昌彦	発行所 日本野鳥の会埼玉県支部
発行所事務局	〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号	プリムローズ岸町107号
	電話 0488(32)4062	
	郵便振替 東京9-121130	銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990
印刷所	望月印刷株式会社	

（無断転載を禁じます）